

### 7. 当院で施行している婦人科性器癌の術前検査としてのリンパ管造影法について

洪恩超, 木下 昌 (県立佐原)

当院では、昭和 48 年より、婦人科性器癌の術前検査の一つとして、リンパ管造影法を施行している。今回は、そのやや高度なテクニックを要するリンパ管の剝離、リンパ管挿入針の挿入時のポイントを図示した。

また今までに当院で施行した子宮頸癌 14 例、卵巣癌 3 例、外陰癌 1 例の中、興味深い所見の認められた症例を 2 例示した。また子宮頸癌の広汎子宮全剝手術では、術中の写真を撮る事によるリンパ節の取り残しをなくす事ができる。

### 8. 子宮外妊娠の超音波診断

小林充尚 (千大)

子宮外妊娠の診断において超音波診断法の果たす役割は極めて重要である。過去当科超音波診断室において外妊の疑いにて検査を施行した 41 例のうち 21 例が外妊と超音波的に診断されたが、うち 20 例は正診、1 例がイレウスであった。また 1 例は S 字状結腸の著明な充満を外妊と誤診した (false positive) 外妊の診断に最も重要な所見は、GS (-)、増大子宮中のエコー増加および骨盤腔内腫瘍の存在 (特にダグラス窩に) である。

### 9. 妊娠前半期の出血に対する超音波診断の応用

天神弘尊 (千大)

過去 3 年間、妊娠前半期に出血を主訴として超音波検査を受けたものは 189 例あり、内訳は胎状奇胎の疑 88、子宮外妊娠の疑 41、前置胎盤の疑 21、子宮内胎児死亡の疑 10、稽留流産の疑 8、その他 21 あり、超音波診断との一致率は 50% 前後であった。確定診断の判明しているものは 118 例あり、正診率は胎状奇胎 97.7%、子宮外妊娠 95.5% などであった。

### 10. 摘出標本による B-scope の検討

小浜知美, 新井一夫, 長谷川正夫  
(君津中央)

産科婦人科領域における B-scope がきわめて有力な診断手技であることは言を待たない。昭和 50 年 5 月 1 日より 10 月 31 日における君津中央病院産科婦人科手術 75 例中、B-scope を行なった症例は 35 例であり、筋腫、多房性卵巣腫瘍の症例を提示した。外来にて筋腫と診断され、B-scope を行なわなかった症例中子宮体部癌 1 例、子宮肉腫 1 例を組織学的に診断、子宮筋腫と外来診

断された症例も、全例 B-scope を行なうべきであると考える。

### 11. 産科婦人科における診断用 X 線被曝線量軽減について

新井一夫 (君津中央)  
行場昭三 (千大・放射線)

産科婦人科領域の X 線検査は、生殖腺を直接被曝する、あるいは胎児をも同時に被曝するので、被曝線量軽減は重要な問題である。大学病院、関東地区の公立病院における撮影条件をアンケート調査し、撮影電圧、増感紙、フィルムなどを改善することにより被曝線量を 1/10 に減少、さらに X 線像瞬時撮影装置を用いれば、1/500 ~ 1/1000 に被曝線量を減少可能である。

### 12. 慢性羊水過多症の羊水検討

中村欽哉, 板橋光司郎 (川鉄)

最近経験した 3 例の羊水過多症の羊水上清について、生化学的に検討、対照として正常発育をとげた 4 症例、SFD 妊娠の 2 症例の成績を併せて比較考案した処を報告する。電解質、蛋白は殆んど差異は認められず、クレアチニン、トランスアミナーゼも対照群と殆んど有意差はなかった。リゾチーム活性は有意に低値をとったが、羊水量の少ない SFD 妊娠でも低値であった。L/S は症例により不定、E<sub>3</sub> は低値  $\alpha$ -FP は一般に高値を示した。

### 13. Tamoxifen の婦人科的応用

田島朝信 (千大)

Tamoxifen はイギリスの Imperial Chemical Industries で最近合成された。これは Clomiphene citrate と同様、ヒトにおいては anti-estrogenic に作用する。

今回われわれは tamoxifen を入手し、各種無排卵婦人のその排卵誘発効果を検討した。第 1 度無月経では 6 名 13 周期のうち 4 名 8 周期、第 2 度無月経では 2 名 4 周期のうち 0 名 0 周期、稀発月経では 9 名 20 周期のうち 5 名 11 周期、無排卵周期症では 11 名 28 周期のうち 8 名 19 周期、計 28 名 65 周期のうち 17 名 38 周期に排卵を誘発した。

### 14. Hysterosalpingography 側面像の意義

田巻勇次 (千大)

不妊臨床上行なわれている Hysterosalpingography は一般には正面像のみの観察が行なわれている。今回、不妊婦人 285 名を対象として水性造影剤 6~10 ml 注入直後に正面像と側面像を撮影し、子宮腔像、卵管像およ